



## ～お知らせ～



今年も残すところ1月半となり、年末に向け何かと忙しい時期に入りました。ここのところ例年になく日々の気温差が大きく体調を崩している人も多く見受けられます。朝晩の冷えには注意してください。

最近、風邪が引き金となって咳が止まらない症状が流行っています。咳は夜になると激しくなり、眠れない状態が続きます。そのまま放置すると喘息に移行します。一般の薬局で販売している咳止めは効かないため、内科または耳鼻咽喉科での診察が必要です。皆さん、十分にお気を付けください。

補償コン協会では、来年度に向けた情報提供の場として起業者との意見交換会や研修会などを積極的に開催しています。提供された情報の中で見直しが検討されている取り扱いの一部を紹介すると「プレハブ建物及びツーバイフォー建物」に関し従来の「見積」対応から木造建物調査算定要領等により「数量積み上げ積算」が可能となる改正が検討されているとのことです。専門業者からの見積もり徴収に苦慮していた現状を考えると画期的な改正になります。今後は注視しましょう。

今年は全国各地で熊の被害がでています。

クマに襲われてけがをするなど、被害にあった人の数は、4月から11月14日までで17の道府県で少なくとも196人にのぼり、国が統計を取り始めて以降、最も多かった3年前の158人を上回る被害となっています。

道府県別では、秋田が最も多い69人で全体のおよそ3分の1を占めているほか、岩手が46人、福島が13人、青森、長野で各11人と東北地方で被害が多くなっています。このほか、新潟で7人、山形、岐阜で各5人、北海道、富山で各4人、群馬で3人、宮城、石川で各2人など各地で被害が広がっています。

クマの生態に詳しい専門家によると過去最悪の被害が出ていることについて「もともと餌となるドングリなどの不作の影響によってクマの出没や被害が多くなる年があるものの近年はクマの生息範囲が広がっているほか、生息数自体も増えているという見方もある。狩猟をする人が減り、人里では耕作放棄地も増えてクマが生活しやすい環境に変わってきているうえ、山を下りて人里と隣り合った地域に暮らすクマも増えているとみられ、被害の増加を深刻に受け止めるべきだ」と指摘しています。そのうえで、例年、クマが冬眠に入るまでの12月に入るころまでは被害が相次ぐ傾向があるとして、「クマの出没や被害が出ている地域を中心に、特に人とクマの活動が重なる早朝と夕方から夜間にかけての時間帯には警戒してほしい。栗や柿の実などクマを寄せつけるものは早めに取り除くことが必要で、自力で作業が難しいお年寄りなどには自治体の支援も必要だ」と述べています。

○入山時は、ラジオや鈴などの音の鳴るものを携行し単独行動は避けましょう。

○クマの活動が活発な早朝や夕方の入山は避けましょう。

○クマの餌となる生ゴミや不要となった果実や農作物等は適切に処分しましょう。

○子グマを見かけても、決して近づかないでください。近くには母グマがいると考えられ、大変危険です。

○集落周辺や河川敷などのクマが隠れそうな藪は刈り払いましょう。

現場等に出向く場合は、注意してください！

もうすぐ12月。今年の忘年会はどうするの？というような声が廻りから聞こえるようになりました。5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから、初めての年末年始を迎えることとなります。

とあるアンケート調査によると忘年会に「参加したい、参加を予定している」が53%、「どちらかと言えば参加したい」が26.5%で、全体の79.5%が参加する意向があるとの結果だったとのこと。近年は“忘年会離れ”も指摘されるが、コロナ禍による行動制限がなくなったことで、忘年会のハードルはある程度低くなっているようです。

朝晩寒くなってきました！

寝冷えなどしないように気をつけてくださいね！



「ウィークリースタンスの徹底を」お願いします

①昼休みや16時以降開始の打合せは行わない

②休日明け日（月曜日等）は依頼の期限日としない

③休前日（金曜日）は新たな依頼をしない

④ノー残業デー（水曜日）は勤務時間外の依頼はしない

⑤ランチタイム・オーバーファイブ・ノーミーティング

⑥イブニング・ノーリクエスト（R5.6から）



○必見！ ホームページをご覧ください！ 新たな情報等があれば教えて下さい

[www.hokurikuyouchi.co.jp](http://www.hokurikuyouchi.co.jp)

○お願い！ 「Aipo」を活用しましょう